



流通魚中のPCB検査



平成22年5月、11月に中央卸売市場で収去した市内に流通する魚介類14種20検体について、PCBの検査を行いました。その結果、1検体からPCBを検出しました(表)。しかし、検出された値は暫定的規制値以下でした。

表 PCBの検査結果

単位:ppm

食品の種類		検体数	検出件数	結果	暫定的規制値
遠洋沖合魚介類 (可食部)	カツオ	1	0	不検出	0.5
	ゴマサバ	1	0	不検出	
	スケトウダラ	1	0	不検出	
	マイワシ	2	0	不検出	
	マサバ	3	0	不検出	
内海内湾魚介類 (可食部)	アカカマス	1	0	不検出	3
	イサキ	1	0	不検出	
	ウスメバル	1	0	不検出	
	サワラ	2	0	不検出	
	ブリ	2	1	0.07	
	マアジ	2	0	不検出	
	マコガレイ	1	0	不検出	
	マダイ	1	0	不検出	
	ムシガレイ	1	0	不検出	
計		20	1	—	—

(検出限界 : 0.01ppm)

《平成13～22年度PCB検査結果》

平成13～22年度の10年間に市内を流通する魚介類48種197検体について行ったPCBの検査結果を図に示しました。

その結果、最も高くPCBが検出された検体は、平成20年度に検査したマサバの0.10ppmでした。また、次に高い値を示したのは平成20年度に検査したマイワシと、平成21年度に検査したブリの0.08ppmでした。

以上のように、結果はすべて暫定的規制値以下でした。その中でPCBの検出頻度が高かった魚種は、カンパチ、シマアジ、ブリ等の赤身魚でした。

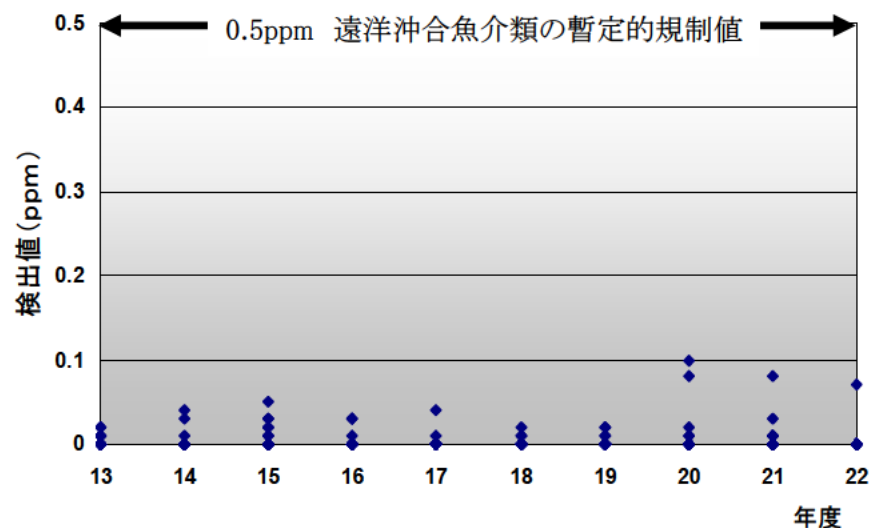


図 PCB検出値の経年変化

【検査研究課 微量汚染物担当】